

平成二十八年 度

国

語

(解答はすべて解答用紙に記入しなさい)

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「将来」のことを考えるということは、○○になりたいという「夢」のことだと思う人は多いでしょう。

A、自分は人より少しかわいしい、少し歌も上手いからアイドルになりたい、なれるんじゃないか……とか。

もちろん可能性はゼロではないけれど、アイドルになるような人は、小さい時から人を集めて歌っていたり、かわいくて注目されたりしています。気がついた時にはとくに道ができていると思うんです。

夢を持つ①ということはステキなことですが、何もないところに道を作るのは大変なことです。そういう意味で、自分の身の回りや興味の範疇はんちゆうにないものを将来像として願っていても、あまり現実的ではないように思います。それに、今まで自分が好きだったことやものを全部否定することにもなってしまうです。

私は基本的に、それはあまりしてほしくないと思っています。これまで自分が積み上げてきたものが、今の自分を作っているの¹で、それを生かすということにもっと目を向けてほしいです。

なぜ自分はここに生まれたのかとか、どうして自分はこれが好きなのかとか、自分の身の回りから考えていくと、将来というのは、そんなにうすばんやりしたものではなくてくるように思います。

たとえば、身近なところに将来の職業があるという意味で、親の仕事は継ぎやすいということはあると思います。もともとあるものに関して、人は意外とありがたみを感じないものですが、大変さも含めて雰囲気を知っていることは強みです。

自分の好きなことを見ついたり、知ったりすることは、とても大切なことです。どこまで好みを貫くかも自分で決めていくことだから大事です。

将来やりたいことを探すためには時間が必要です。自分の向き不向きを見極めていくのはいくら早くてもいいんです。夢と自分との距離が開き過ぎていると難しいと思うし、それでも切り拓ひらける人はいるけど大変です。

何事も一日にしてならず、ですから。少なくとも今まで積み上げてきたものがどんな人にもあって、十歳には十歳の、十五歳には十五歳の積み重ねがあるでしょう。それを親にお願いしてでも見てもらってほしいし、自分でも見つけてほしいです。それだけでも²相当なことが分かると思います。もうその人の得意なことは十歳でも明らかに出現していますから。

そうやって、小学校、中学校、高校と将来のことが、だんだんとリアルになっていくのが理想的な形なのかなと思います。

本当に自分にぴったりの仕事というのも、探していけば必ずみつかります。

ある程度の年齢になると人間は得意なことに逃げるようになるんです。そうすると得意なことがだめになっていきます。上手くいかないことを得意なことで解消するというサイクルに陥ってしまうと、得意なことが得意でなくなっていくし、楽しくなくなってしまう。

例えば、介護の仕事が得意で、自分は高齢者のお世話についてはグンを抜いていて、周りの人望もアツいという人がいるとします。その人に「私生活はどうなの？」と聞いた時に、仕事が充実していて忙しいし、私にはおじいさんおばあさんがいるからいいのと。結局、何かひとつのことに特化した人というのは、応用がきかなくなってしまうんです。極端なことを言うと、おじいさんおばあさんとは楽しく話せるけれど、同世代の異性とは口がきけないとか。

自分の得意な世界しか知らないと、悩み事があっても、他の角度から見ることができなくなってしまう。そうするとだんだん、得意なことが先細りになっていって、せっかくの才能がものすごくもったいないかと、最近、私はいろんな人を見ていて思うんです。

今の世の中はこうでなければダメとか、強くいったものの勝ちとか、その人が持っている自信を奪っていくことがいっぱいあります。 B、得意なことを強化して、自信を持てるようにという、その努力自体は間違っていない。

世の中があまりにも世知辛くて、外に行くとき自信を失うから、自分の得意な枠の中で安心していたいという思いが一層強くなっていると思うんです。それは誰にでもある心理だから分かるけど、そういうふうにとどんどん逃げて、依存するようになると、どんどん弱っていきます。自分を甘やかすことにもなってしまう。そうやって人生のバリエーションが、少なくなっていくのはつまらないことだと思います。

なるべく小さいうち、若いうちに万遍なくいろんなことをやっておいて、苦手なこともやってみて人にとことん笑われるとか、好きだけど向いてないとか、そういうことをいっぱい経験しておくことも大切だと思います。

そうすると大人になってから、本業のほうも上手くいくようになるでしょう。

私はオサナい^④ころから作家になると決めていたので、作家になる前の時期、みんなが当たり前のようになっていること——学校に行ったり、勉強したりすること——に何の意味があるのか分からなかったんです。

でも、若くして作家デビューした時に、人生経験が圧倒的に少ないと感じました。就職もしていなかったし。何とかしなければ、いろんな人に会いに行ったり、旅に出たりしました。人に会うには、フクソウや振る舞い、礼儀正しさなど気をつけないといけないことがたくさんあって、そういうことも勉強になりました。お金は少しかかりましたけどね。でも、人生の幅を広げるためだったので後悔はしていません。

私は小説を書くのが好きだし、書いていたらいくらでも時間が過ぎていってしまう。だから、あの時、家で書き続けるばかりだったら、私の小説はどんどん先細りになっていったと思います。あのお金を全部貯金していたら、生活には困らなかったかもしれないけれど、小説には困ったでしょうね。新しい場所に行くとか、新しい人に会うというのはすごいことで、自分を強くしたし、あの体験があったから、いろいろな層の人たちを書くことができるようになったと思います。

世界は広くて様々な仕事があり、いろんな考えの人がいます。一人の人間が直接体験できることは限られているので、他の人と会って、その人がやっている仕事を見て、想像していたのとは違うな、と思う瞬間をたくさん持つのがいいことだと思います。そういうのを見に行ってみるだけでも面白いし、世界が広がって、謙虚になれます。

自立というのは、お金のことでない気がします。お金をちゃんと稼いでいて、親と別に暮らしていても、全く親離れしていない人はたくさんいます。状況が自立していても、それを自立とは言わないんじゃないでしょうか。

私が考える自立は、親や兄弟姉妹に、何も言わないで問題を解決したことがあるかどうかだと思います。親の代わりに友達に相談してもいいけれど、そのことを親にも兄弟姉妹にも言わない。そういうことがいくつかできた時が自立なんです。

それはそんなに若いうちにできなくてもいいんです。

私も、親にいちいち言わなくても大丈夫だなと思ったあたりで自立した感じがします。今振り返ってみると四十歳くらいになってからでした。自分だけで立って歩いて行こうという意志があることも大事だと思います。

C

一生自立しなくてもいい人

もいるので、そこは強いて頑張れよとは思いません。

ただ、自分にとっては自立できたことはよかったなと思っています。豊かな感じがするんです。自分の世界を広げて解決してい

く感じが。最終的には親の顔を見るだけでいいやつという。そういうところで初めて自立して大人になったというのかもしれない。

最後に、仕事とは別に、楽しいことや生きがいというのも大切で、そういうものも必要です。仕事だけやっていたら、人生が楽しくなくなってしまうから。本当に先細っていつっちゃうと思うんです。そういう全てがつながって、いろいろなことが豊かになっていくというのがいちばん良いイメージです。

(出典 吉本ばなな『おとなになるってどんなこと?』ちくまプリマー新書による)

問一 〰線①～⑤のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 A～Cに入る言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア では イ さらに ウ たとえば エ でも オ だから

問三 〰線1「それ」とありますが、どういうものですか。説明しなさい。

問四 — 線2「相当なことが分かる」とありますが、どういうことですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア なぜ自分はここに生まれたのかを問い続けることで、夢と自分との距離を実感してやるべきことが見えてくるということ。

イ 自分の身近なところに目を配ってみることで、十五歳なら十五歳なりの自分にぴったりの仕事が見つかるということ。

ウ 将来やりたいことを探すためには時間が必要なので、親に相談することで自分の夢が見えてきて安心できるということ。

エ 自分の身近なところから将来を考えていくと、その年齢なりに自分は何が好きで得意なのかはずいぶんわかるということ。

オ 親の仕事は継ぎやすいからといって安易に考えるのではなく、自分の向き不向きを見極める努力をするべきだということ。

問五 — 線3「得意なことに逃げる」とありますが、なぜ人間は「得意なことに逃げ」ようとするのですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分を甘やかす人が増えてきているので物事をすぐにあきらめてしまうから。

イ 介護の仕事があまりに忙しくて自分に言い訳しながら生きることになるから。

ウ 自分の得意な枠の中で安心していたいという思いが一層強くなっているから。

エ 得意なことが先細りになるのではないかと不安で才能を浪費してしまうから。

オ 世の中は強くいっただもの勝ちなので苦手なことをやってもしかたがないから。

問六 — 線4「応用がきかなくなってしまう」とありますが、どういうことですか。「〃こと。」に続くように本文中から二十字で抜き出さなさい。(句読点等記号も一字に数える。以下の問いも同じ。)

問七 — 線5「いっぱい経験しておくことも大切だ」とありますが、なぜ「大切だ」といえるのですか。四十文字以内で説明しなさい。

問八

——線6「自立できたことはよかったなと思っています」とありますが、なぜそういえるのですか。四十五字以内で説明しなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

次の日、学校から帰って、一階の奥にあるおばあちゃんの部屋の前に何度も立った。

おばあちゃんに前みたいに笑ってほしい。いつもみたいにくれしうにおしゃべりしてほしい。「光一、ちょっとばあちゃんとお出かけしようか」って誘ってほしい。おじいちゃんの昔話をしてほしい……。

だから、ぼくは何かできることをしてみようと思ったんだ。

「おばあちゃん、遊ぼう。トランプやろう、トランプ」

「おばあちゃん、これ食べて。大福とお茶、コンビニで買ってきたから！」

「おばあちゃんが好きな本、探してきたんだ。読んでみない？」

「折り紙、可奈子が教えてほしいって！」

……他にも、ふわふわの毛布をかけてあげたり、肩たたきをやったあげたり……。

でも結果はさんざんで、最後にはおばあちゃんに「¹ごめんなさいね」と謝られてしまう。

おばあちゃんに笑ってほしいのに。元気になってもらいたいののに。

寂しそうに「ごめんなさい」と言わせることしかできない。

笑顔も元氣もおじいちゃんがいところは、すぐそこらにいくらでもあったのに。何も考えなくなつてあつたはずなのに。……どうしたらいいんだろう。

あれこれやつたせいで散らかった遊び部屋の真ん中に座り込んで、ぼくは頭を抱えた。

そこでふと目に入ったのが、コインだった。

おじいちゃんが見せてくれた手品で使った外国のコイン。魔法で消えたり、増えたりしたあのコイン。……そうだ、これだ！

おばあちゃんはびっくりすることが大好きで、おじいちゃんの魔法を見るといつも目をまん丸にして食いつくみたいに見ていたつけ。そんなおじいちゃんのコインだつて。

²ぼくはコインをぎゅっと握りしめる。

ぼくにもひとつだけ、できる手品があるんだ。おじいちゃんから「ひとつだけ、種明かししてやる」といって教えてもらったや

つだ。

ぼくはコインと手品用の赤いハンカチを握りしめて、寒い廊下^①を走った。

「おばあちゃん、ちょっと見ててくれる！」

襖^{ふすま}をあけて言うのと、おばあちゃんは頭だけをぼくの方に向けて瞬き^{まばた}をした。

「いくよ。よく見てて」

そう言つて右手に乗せたコインを見せる。そこにハンカチをかぶせて……「1、2、3」と大げさに数えてみせて、ハンカチを左手でさつと取ると、右手に乗せていたコインは消えたようになっていている。

「ほら！」

「……光……それ、おじいちゃんの……」

そう言つたまま、おばあちゃんは黙り込んでしまった。

あれ……ダメかな。もう一度、同じように右手にコインを戻して、ハンカチを……。

すると、おばあちゃんは首を振つてうつむいてしまった。動けなくなつてしまったぼくの耳に、小さく鼻をすする音が届いて、

おばあちゃんの眼鏡の奥に光る滴^②が見えた。

「……³ごめんなさいね」

おばあちゃんは、絞^{しぼ}り出すようにそう言つてまた小さく鼻をすすった。

ぼくはまた何もできないまま、そつと襖を閉じた。

おばあちゃんは、やっぱり「ごめんなさいね」と言つて小さく謝った。

……また、「ごめん」って言わせちゃった。一生懸命やつてみたけれど、また。

⁴右手に残ったコインを、きつく握りしめる。

ぼくが子どもだからだろうか。頭が悪いからだろうか。ぼんやりしてばかりだからだろうか。おじいちゃんみたいになくできないからだろうか。……ちくしょう。

ぼくにおじいちゃんの魔法が使えれば。ぼくが父さんみたいに頼りになれば。大人みたいになんでもできれば。きっと、きっと母さんはフキゲンにならないで、可奈子だっていつもみたいにいっぱいおしゃべりできるんだ。おばあちゃんも、いっぱい笑って「ホントねえ」ってぼくの頭をなでてくれる。

でも、ぼくには何もできない。笑わせることも、フキゲンをなくすこともできない。

うつむいていたら、鼻の奥がつーんと痛くなって、まぶたから熱いものがこぼれそうになる。ぼくはぐつと歯を食いしばった。びんぼーん。

突然、玄関のチャイムが鳴った。ぼくは涙をごまかすために大きく鼻をかんてから廊下を走った。

扉を開けると宅配便の人が立っていた。大きな包みを抱え、片手を帽子のひさしにあてて「どうも」といいながら首を突きだすみたいにおじぎをした。一抱えもある大きな荷物を受け取って目を落とすと、届け先には、おばあちゃんの名前が書かれていた。

「なんだろう？」

包みを持ち上げて中身を見ようとしたら、不思議なことに気がついた。宛名^{あてな}には懐かしいおじいちゃんの名前……。つまり……。ええと……。おばあちゃんに、おじいちゃんがこの荷物を送ったっていうこと？

「おばあちゃん！」

ぼくは包みを抱えると、廊下を走り出した。慌^わてていたのかすべってしまふ。鈍い音がしてスネを階段にぶつけたけれど、そんなことはどうでもよかった。

おじいちゃんが……。おじいちゃんが……。

一階の奥にあるおばあちゃんの部屋の襖を開けたら、おばあちゃんは少し驚いた顔でぼくを見た。おばあちゃんに包みをぐつと差し出すと、おばあちゃんは小さく首をかたむけてから包みを見て……。そして、ぽたぽたと大きな涙が包みに落ちた。

「あなた……。あなた……」

包みを強く抱きしめながら、おばあちゃんはずぶやくように、何度も言った。

ぼくが受け取った包みは、おじいちゃんがいなくなる前に病院から注文したおばあちゃんへのプレゼントだった。いなくなつてからプレゼントだけがひょつこりと今日、届いた。すぐにわかった。ああ、またおじいちゃんは、魔法を使ったんだって。

声をあげて泣くこともできなかったおばあちゃんに、我慢しないでいいんだぞってやさしく言っ**b**てあげて。何もできないとし**b**よ

「けていたぼくを、いつだって助けてやるぞって勇気づけてくれて。いつだってこの家の、ぼくたち家族の力になってやるぞって励ましてくれて。」

ずっとずっと遠くに行ってしまったのに。行くこともできないほど、二度と会うこともできないほど遠くからなのに、おじいちゃんはぼくたちに魔法をかけてくれたんだ。⁶

「おじいちゃんはカッコいいなあ、やっぱ……」

小さい子供みたいにわんわんと泣き続けるおばあちゃんを、ぼんやりと眺めながらぼくはつぶやいた。

次の日の晩に父さんから連絡があった。

「……親父^{おやじ}のやつ、自分が死んじまうって思ってたなかったんだろうな。帰ってから快気祝^④いの前払いだ、とか言うつもりだったんじゃないのか。驚かせるのが好きな親父らしいよ」

父さんは驚きながらも、あきれたような声でそう言っていたそうだ。

居間のこたつにみんなであたりながら、母さんは教えてくれた。

「でね、お父さん、クリスマスにはこっちに帰ってくるって」

「そうなの？」

「お父さんも寂しいみたいよ」

そう言いながら、母さんもうれしそうだ。クリスマスには、九州から父さんがプレゼントを持って帰ってきてくれる。そして、天国のおじいちゃんからは、おばあちゃんの笑顔と母さんや可奈子の笑い声をプレゼントしてくれた。

どこにいたって、なにをやっていたって、やさしい気持ちや思いは届くんだ。おじいちゃんの魔法でぼくにはそれがわかった。

タンシンフニンで遠くにいる父さんもきつと同じ。

「……光一は、なにが欲しいの？　ばあちゃんと買いに行こうか」

ぼんやり考えていたぼく^⑤に朗らかな声がかかる。目の前で、おばあちゃんが笑っていた。少しずつだけれど、外に出かけるようになって、また遊んでくれるようになって、昔の話をしてくれる。何よりよく笑うようになった。

「うん！」

(出典 リンダパブリッシャーズ編集部『99のなみだ 第六夜』泰文堂による)

問一 ①⑤の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二 a・bの語句の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a 絞り出すように		b しょげていた	
ア	やつとのことで	ア	困っていた
イ	困り果てて	イ	あきらめていた
ウ	痛みに耐えて	ウ	がっかりしていた
エ	仕方なく	エ	いらいらしていた
オ	思い切りよく	オ	迷っていた

問三 線1「最後にはおばあちゃんに『ごめんなさいね』と謝られてしまう」とありますが、このときのぼく的心情として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア どうしておばあちゃんは笑ってくれないのかという苛^{いらだ}立たしさと、どうしようもないというあきらめの気持ち。
 イ 何をしてもおばあちゃんを元気づけられない悔しさと、これ以上どうしてよいかわからず途方に暮れる気持ち。
 ウ おばあちゃんに謝ってもらっても仕方がないという怒りと、自分は全く役に立たないという自己嫌悪の気持ち。
 エ 泣いてばかりいるおばあちゃんに申し訳ないという気持ちと、必ず笑顔にしてあげたいという前向きな気持ち。
 オ どうしても笑ってくれないおばあちゃんに困り果てる気持ちと、何をしてでも無駄だという投げやりな気持ち。

問四

——線2「ぼくはコインをぎゅっと握りしめる」と——線4「右手に残ったコインを、きつく握りしめる」のぼくの心情として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 2は次こそうまくいくはずだと意気込む気持ちで、4は成功せず悔しくてたまらない気持ち。

イ 2は何とかなるかもしれないと期待する気持ちで、4は手品がうまくいかずに落ち込む気持ち。

ウ 2は不安と同時に期待が入り混じる気持ちで、4は失敗したことに怒りがおさまらない気持ち。

エ 2は何度でも挑戦しようとする積極的な気持ちで、4は何をやってもだめだとあきらめる気持ち。

オ 2は必ず成功すると信じる気持ちで、4は失敗してもあきらめずにがんばろうとする気持ち。

問五

——線3「ごめんなさいね」とありますが、おばあちゃんがそう言ったのはなぜですか。三十五字以内で説明しなさい。
(句読点等記号も一字に数える。以下の問いも同じ。)

問六

——線5「ぼくはぐつと歯を食いしばった」とありますが、どのような気持ちですか。六十字以内で説明しなさい。

問七

——線6「おじいちゃんはぼくたちに魔法をかけてくれたんだ」とありますが、おじいちゃんは魔法によってぼくに何をプレゼントしてくれましたか。本文中から二十一字で抜き出しなさい。

問八

——線7「ぼくは力一杯返事をして、思いっきり笑い返した」とありますが、このときのぼくの気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ぼくが力一杯元気に振る舞うことでみんなを笑顔にさせることができると確信している。

イ みんなが悲しみを乗り越えることができたのはぼくががんばったおかげだと満足している。

ウ 取り戻した^{もと}と思うていたおばあちゃん的笑顔が再び見られるようになって喜んでいる。

エ 一緒に買い物に行くことでおばあちゃんに好きなものを買ってもらえると期待している。

オ 久しぶりに父さんが九州からプレゼントを持って帰ってくることを楽しみにしている。

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（出題の都合により、一部表記を変えた部分があります。）

（子どもが比叡山に登ったところ）

これも今は昔、^aゐなかのちこの比叡の山へ登りたりけるが、桜のめでたく咲きたりけるに、風のはげしく吹きけるを見て、この（しみりと）

（僧がそつとそばに寄つて、「どうして、こんなに泣きになるのか。」）

（残念に思ひになるのか）

ちごさめざめと泣きけるを見て、僧のやはら寄りて、^b「など、かうは泣かせたまふぞ。この花の散るを惜しう覚えさせたまふか。」

（このようにすぐに散つてしまうものです。だがそれだけのことです）

（桜が散るのは、

³桜ははかなきものにて、かくほどなくうつろひさぶらふなり。されどもさのみぞさぶらふ」となぐさめければ、「桜の散らんは、

無理にどうしようと思わないので、つらくありません。）

（実が入らないのではないか、と思うと悲しいのです）

（しゃくり

あながちにいかげせん、苦しからず。我が父の作りたる麦の花の散りて実の入らざらん、思ふが、わびしき」といひて、さくり

あけて、おいおいと泣いたので、がっかりしたことだ。）

⁴あげて、よよと泣きければ、⁵うたてしやな。

（出典 『宇治拾遺物語』 による）

問一 〓 線 a、c を現代仮名づかいによる表記に書き改めなさい。

問二 〓 線 1「めでたく」・3「はかなきもの」の文中における意味として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、

記号で答えなさい。

1 「めでたく」

ア	みごとに
イ	楽しく
ウ	まばらに
エ	はげしく
オ	たくさん

3 「はかなきもの」

ア	おもしろいもの
イ	つまらないもの
ウ	不吉なもの
エ	あつけないもの
オ	かわいらしいもの

問三 — 線2「僧のやはら寄りて」とありますが、なぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 美しい桜を見て泣く子どもに共感して感動を伝えようと思ったから。

イ 桜が散るのを残念がって泣いている子どもをなぐさめようと思ったから。

ウ 泣いている子どもに散っていく桜の美しさを教えようと思ったから。

エ 風がはげしく吹いてきたので今のうちに帰るように言おうと思ったから。

オ 桜の下でひたすら泣いている子ども様子を見て心配に思ったから。

問四 — 線4「よよと泣きければ」とありますが、なぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ふるさとで麦を作っている父親を思い出して恋しくなったから。

イ 比叡山の桜の木がすべて枯れてしまうことが悲しかったから。

ウ 父親が育てている麦に実が入らなくなることが心配だったから。

エ 桜の木が来年も美しい花を咲かせるかどうかが不安だったから。

オ 麦を作る大変さを僧が理解していないことが悔しかったから。

問五 — 線5「うたてしやな」とありますが、どのようなことに対していつているのですか。最も適当なものを次の中から

選び、記号で答えなさい。

ア 子どもが、自然のすばらしさを感じ取る心を僧に言われる前から持っていたこと。

イ 子どもが、せっかく気をつかって声をかけたのにさらに大声をあげて泣いたこと。

ウ 子どもが、ふるさとの父親に深い孝心を持っていることに気づけなかったこと。

エ 子どもが、桜の美しさに心を奪われて親のありがたみをわかっていなかったこと。

オ 子どもが、桜の花が散るのをしみじみと惜しむ風流な心を持っていなかったこと。